

第1学年 道徳学習指導案

日 時 平成24年11月13日(火) 5校時

生 徒 沼宮内中学校 1年A組 男17名 女12名 計29名

指導者 山下 摂子(沼宮内中学校)

ファミリースクール研究主題

『小・中学校連携による確かな学力の育成』

～小・中学校で共通の課題をもち、同一方向を見据えた指導を通して～

【研究主題に関わって】

授業改善を目指して重点として取り組むこと

- ①自分の思いを素直に表現することができる児童・生徒の育成
- ②道徳的価値の自覚を深めさせるための教師の発問の工夫
- ③発達段階に応じた指導のあり方

- 1 主題名 人間の弱さの克服(人間の弱さの克服・人間の気高さ・生きる喜び) 3-(3)
(資料名 「つかの間の出来事」 出展「学研 かけがえのないきみだから 中学生の道徳1年」)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本時の主題である「責任をもった誠実な行動」に関して学習指導要領の中学1年生では「3主として自然や崇高なものとの関わりに関すること」の(3)「人間の弱さの克服, 人間の気高さ, 生きる喜び」に示されている。

中学生の発達段階では, 人間には内面に潜む弱さや醜さがあることに気が付く。そして自分の心を少しずつ見つめる姿勢も形成される。自分自身の生活を振り返って様々な場面で起こりうる問題にどう考え行動するべきかを問い, 過ちを克服する人間の気高さに気が付き, 自己の生活に活かす生徒の育成に努めたい。

(2) ねらいに関わる生徒の実態について

生徒は中学校生活に希望をもって生活している。部活動や行事面でも自分の責任を果たそうと努力する生徒が多くみられる。その反面, 自分の関心事に夢中になると周りが見えなくなったり, 雰囲気左右されて判断を誤ったりする場面があった。自分の行動の過ちに気が付くこともあるのだが, その後どうするべきか考えることができず, また同じ過ちを繰り返したり, その場しのぎの反省で終わったりすることもあり, その結果, 学級や学年での話し合いや集会になることがあった。

人間は過ちも犯すことがあるが, 自分の過ちに気が付き正そうとする気持ちももっている。そこに人間としてのすばらしさがあることを強調して伝えたい。これまでの中学校生活を振り返って, 自分自身の行動から人間のもつ弱さや醜さを理解し, その弱さや醜さを克服することが人間のもつ気高さであることに気付かせたい。思春期の様々な問題にあたったとき自分ならどう行動することがよいか, 考えをまとめさせることでねらいとする価値に近づけたい。

(3) 資料について

本資料は中学生の道徳「かけがえのないきみだから」の中の生徒作文によるものである。主人公の「わたし」が何気なく手にした雑誌を破いてしまうところから, 「わたし」の心の葛藤と弱さを克服しようとする行動がわかりやすく描かれている。普段の生活で自分でも悪気があってとった行動ではなくても過ちを犯してしまうことがある。心の中で様々な思いがめぐり, 堂々として生きていきたいという考えにいきつく。自分が堂々として生きるためには店の人に謝るだけでなく, 母親へも正直に話そうと決意し, 心の中の黒い雲が晴れていく。主人公の気持ちを読み取り心の葛藤やその後の行動をとおして自分の考えを深めさせるのに適した資料であると考えられる。

(4) 指導にあたって

中学校道徳資料を活用し、本を破ってしまった後の主人公の心の中にある黒い雲という言葉に着目させたい。主人公の心の中に芽生えた罪悪感が店の人への謝罪や母親への告白をとおして変化する様子を考え、心のもやもやした黒い雲が消えてゆくことを理解させたい。事前指導として「これまでに心の誘惑に負けて困った体験があるかどうか」の事前調査を行う。生徒一人一人の困った体験からその後どうなったのか、そのときの気持ちを考えさせる。その後の行動に活かせるようにするにはどうしたらよかったか改めて考えさせ、主発問につなげていきたい。さらに、主人公と同じような心の中にある黒い雲はどうやったら晴れるのかを考えさせたい。

本時では事前調査と主人公の心の黒い雲を活かし、自分で考えた心の黒い雲を実際に描かせることで視覚的に表現することと自分の考えを文章表現できるように指導したい。

3 本時の指導

(1) ねらい

人間には弱さや醜さもあるが、それを克服し、強く正しく生きる力もあることを信じて、人間としての誇りをもって生きようとする態度を養う。

(2) 研究との関連

①自分の思いを素直に表現できる児童・生徒の育成

- ・事前調査を実施し、人間の弱さや醜さに気が付き、強く正しく生きるには何が必要か考えをまとめ発表できるようにする。

②道徳的価値の自覚を深めさせるための教師の発問の工夫

- ・資料中の主人公の気持ちにそって考えを深めさせるため、主人公の心の黒い雲を実際に描かせるようにする。
- ・中心発問を自己の生活に振り返って考えさせ、弱さの克服と喜びにつなげさせるようにする。

③発達段階に応じた指導のあり方

- ・事前調査により人の心の弱さについて考えさせるようにする。
- ・弱さを克服した主人公が喜びを感じていることに気付かせるようにする。
- ・文章と絵で描くことで視覚的にまとめ、表現できるようにする。

(3) 展開 (◎中心発問 ○基本発問)

過程	学習活動と主な発問	予想される生徒の心の動き	指導上の留意点
導入 10分	1 日常生活を振り返って考える。 ○正直に話すことが出来ず、どうしようか悩んだ体験はありますか。	・勝手にペンを借りて、返し忘れて友達があちこち探していた。 ・友達がからかわれていたけれど止めさせることができずに黙っていた。	・事前調査を行い、生徒の心の中に葛藤が芽生えた場面を想起させる。 (研究との関連①③)

<p>展 開 30 分</p>	<p>2 資料を読んで考える。 ・生徒による黙読</p> <p>○本を破ってしまったあと「わたし」の心の中はどんな状態でしょうか。</p> <p>○家に帰る途中の「わたし」は何を考えていたでしょうか。</p> <p>◎「わたし」の中で渦巻いていた黒い雲がなくなったのはなぜでしょうか。</p> <p>○もう一人の自分を見付け出すということはどういうことでしょうか。</p>	<p>・まずい。(自責の念) ・悪気があったわけではない。 ・誰もみていないから黙ってしよう。</p> <p>・本当のことをお母さんに言おうかな。 ・謝りにいこうかな。 ・あのスーパーには二度といけないな。 ・黙っていてもわからないかもしれない。</p> <p>・本当のことが言えてよかったから。 ・母親に怒られたけどすっきりした気持ちになれたから。 ・隠し事がなくなったから。 ・店の人にも本当のことが言えたから。</p> <p>・素直に謝れたこと。 ・黙ってしようという気持ちに打ち勝つことができたこと。</p>	<p>・教師による音読</p> <p>・わたしの心に後ろめたい気持ちがあることに気が付かせる。 (研究との関連②)</p> <p>・心のなかで葛藤(善と悪)があることを考えさせる。 ・主人公の気持ちになって、心の中にある黒い雲をかかせる。 (研究との関連②③)</p> <p>・自分の弱さを克服し、これまでの心の中にある悩みや迷いがなくなったことを理解させる。 (研究との関連①)</p> <p>・自分の弱さに打ち勝った主人公から学ぶべきことがある点に気が付かせる。 (研究との関連①③)</p>
<p>終 末 10 分</p>	<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>○主人公のように行動するには自分はどうすれば良かったでしょうか。</p>	<p>・周りを気にせずに注意すればよかった。 ・次は友達を困らせるような行動をしないように、きちんと話そう。</p>	<p>・事前調査に戻り、前向きな気持ちになるように感想を記入し発表させる。 (研究との関連①)</p>

(4) 評価

- ・「わたし」の中で渦巻いていた黒い雲がなくなったわけを自分の言葉でまとめようとしたか。
- ・自分の生活を振り返って、今後の生活に活かせるように考えを深めようとしたか。

(5) 板書計画

つかの間の出来事

正直に話をしないで困った体験はありますか。

- ・生徒の体験談を書く

本をやぶってしまったわたし

- ・うしろめたさ
- ・自責の念

家に帰る途中のわたし

- ・謝ったほうがいい
- ・後ろめたい

*主人公になったつもりでかく

黒い雲がなくなったのはなぜか。

*自分の弱さに打ち勝ったわたし

- ・自分の立場であればどうしたか

もう一人の自分を見付け出すとは。

- ・感想記入